



吉備中央町

議会だより

第28号

平成24年1月20日 発行

発行／岡山県吉備中央町議会

〒716-1192

岡山県加賀郡吉備中央町

豊野1-2

TEL.0866-54-2081

FAX.0866-54-1366

編集／議会広報編集委員会



新しい年へダッシュ(吉川地区)

TOPICS

年頭あいさつ2

新設中学校開校計画可決3

10議員が町政を問う6

年頭あいさつ

2012

議長 草地 博

新年明けましておめでとうございます。

町民の皆さまには、ご家族おそろいで新年を慶賀にお迎えの事とお祝い申し上げます。

平素は議会に対しまして、何かとご支援、ご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、本町にとりまして、合併以来の課題でありました中学校統合計画の策定が、昨年

12月議会で議決され、いよいよ本年より開校に向けての諸準備を進める重要な年であります。

この統合については何といっても、住民の皆さまの深いご理解が得られたことであります。

町民皆さまの譲り合いの心、つまり互譲の精神が生かされた結果だと考えます。

今後は開校に向けてそれぞれ、専門部会を設けての協議がなされる予定であります。

これについてはPTAの代表者にも入っていた

だいての協議と



なりますので、予定通りの計画が進み、開校となりますように、今後共、町民皆さまの1層のご協力をお願いする次第です。

また、この他昨年の台風災害復旧や、福祉関連の事業等、多くの行政課題があることから、議会としても町民の負託に応えて参るよう懸命の努力をする所存であります。引き続き町民皆さまの叱咤激励を賜りますようお願い申し上げます。

結びにあたり、本年こそ、自然災害や、大きな事件・事故の起きませんことと、併せて町民皆さまのご健勝を祈念して、新年のご挨拶といたします。

副議長 石井 壽富



新年、明けましておめでとうございます。

ご家族おそろいで、良いお正月を迎えられたことと存じます。

日頃から吉備中央町議会に対しましては格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

本年が皆さまにとっても吉備中央町にとりましても、ぜひ明るい年でありますように願

いたいものであります。

昨年は東日本大震災、福島原発事故、秋の台風12号、15号による自然災害等により被害に遭われた方々に心から

お見舞い申し上げます。本町におきましても台風災害により土木・農林災害も発生しましたが、関係各位のご尽力により、早期復旧予算

等の措置もとられ、一安心しているところでございます。また、23年度の事業推進につき

ましても中学校の統合計画をはじめ図書館の整備、ゴミ処理体制の一本化、企業誘致など

順調に推移しておりますことをご報告申し上げます。

さて、国内外に目を向けますと依然として長引く景気の低迷が続いており、ひいては町の財政運営にも深刻な状況が予測されます。

日本では2020年には高齢化率が30%近くになると見込まれておりますが、本町においては既に35%を超えております。類を見ないスピードで過疎と高齢化が進んでおります。

この現実を踏まえつつ新たな町の課題に取り組んでいくことが我々議会の使命と考えております。

どうか今年も、一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、今年が皆さまにとりましても、幸せ多い年でありますようにお祈り申し上げます、私の新年のご挨拶といたします。

12 月定例会

新設中学校・ゴミ処理一元化が可決！

12月定例会は12月7日から20日まで開かれ、平成22年度決算審査報告、一般会計・特別会計の補正予算など18の議案のほか、請願1件、議員発議1件が上程され、それぞれ原案どおり可決した。

条例改正

職員給与

◎吉備中央町職員の給与に関する条例等の一部を改正し、0.23%を平成24年1月から引き下げる。

高梁地域

事務組合規約

加茂川エリアのゴミ処理の搬入先について平成24年4月より高梁地域事務組合へ吉備中央町全域として委託することによる規約の変更が全員賛成により可決された。

降に旧加茂川町は吉備中央町に、旧御津町は岡山市へ合併、さらに国の環境指針の変更に伴い組合の焼却施設での処理が不可能となったため、一時的に岡山市へ処理受入れをしてもらっていた。

しかし、今回、御津・加茂川環境施設組合が解散するにあたり吉備中央町内のゴミ処理方法を一元化し、高梁地域事務組合に委託するものである。



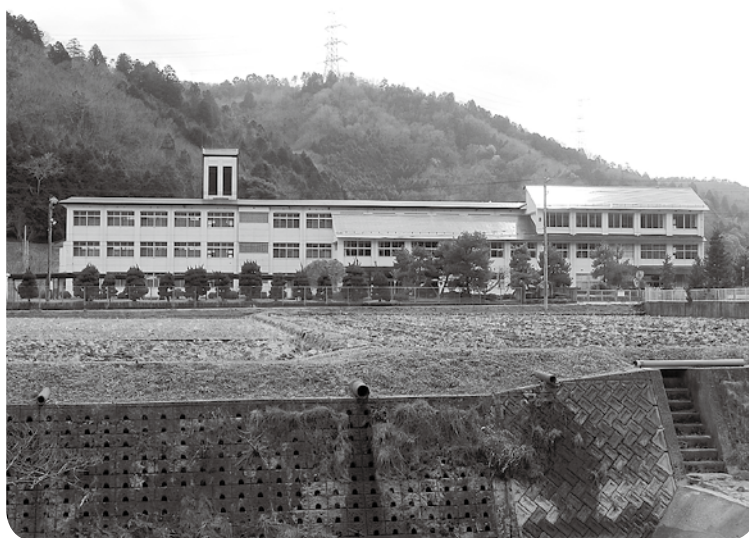
ゴミから資源へ

新設中学校

開校計画

平成16年の合併以降、町にとって重要な懸案事項であった新設中学校の統合が、平成23年12月定例会において賛成多数により可決された。

この新設中学校については、議会からも小中学校統合等に関する研究会のメンバーとして設置当初より加わり、多方面からの意見を交えて協議を行ってきた。また、新設中学校の説明会においては各議員も積極的に各会場に参加した。



生まれかわる校舎・校地



利用が増える道の駅

◎吉備中央町火葬場の指定管理を引き続き吉備中央会館N・JVを平成29年3月31日まで指定管理者とする。

◎吉備中央町地域特産物総合交流促進施設を引き続き(株)吉備高原サツキ育英会を平成29年3月31日まで指定管理者とする。

公の施設の 指定管理

補正予算を可決



雨でも安心に

平成23年度吉備中央町一般会計補正予算を1304万円追加し、予算総額を93億8668万円とする。

追加された主なもの。

◎国民健康保険特別会計への繰出金 3500万

◎総合交流促進施設かよう改修工事 832万

◎有害鳥獣対策事業補助金 300万

◎中山間地域等直接支払制度事業交付金 398万



有効利用が期待される

11月臨時議会

◎吉備中央町立小中学校等教育施設整備計画に関する条例を賛成多数で議決した。

◎旧ニューサイエンス館を県より無償で譲り受け、社会福祉法人もたらう会に無償貸付する案件を全員賛成で可決した。

脱原発宣言

エネルギー資源の少ない日本は、経済発展に伴う電力需要を賄うため昭和29年原子力発電の開発に着手。昭和30年原子力基本法を成立させ、研究炉、試験炉の実証を経て、昭和41年東海村に建設された原子炉で初の営業運転を開始した。以降今日まで全国に54基の原発を建設し、電力供給を担ってきた。

日本の原発は五重の安全システムに守られ、壊滅的事故は発生しないとされてきた。しかし、3月11日東日本を襲った大地震と津波によって12日、福島第一原発でレベル7の壊滅的事故が発生した。

大量に放出された放射性物質は10日間で地球全域に拡散し、海洋にも大量に放出された。原発から数十キロメートルの範囲は半減期30年のセシウム137などの汚染によって今後数十年間は立ち入りができず、或いは立入り規制となる。地上と海洋に拡散した放射性物質はこれから生体濃縮され、食物連鎖のなかで、とくに成長期にある子供たちの数十年後の健康が憂慮される。

核は人類の生存を脅かし続ける。

安全、安心、健康で平和な生活は人類共通の願いである。先人が営々と築きあげた豊かな自然はなにものにも代えがたく、子々孫々に手渡していかなければならない。

稼働中の原発を順次計画的に停止し、すべての原発を廃炉とすべきである。

わたしたちは、原子力に依存しない安心の社会を創るため、自然再生エネルギーの利用など、各界各層の良識ある判断を願いつつ、ここに「脱原発」を宣言する。

以上、決議する。

平成23年12月20日
岡山県加賀郡吉備中央町議会

脱原発 宣言！

◎脱原発の決議を
求める請願
産業建設常任委員会
において慎重に審査され、20日の本議会に報告され、質疑の後、反対、賛成各2名がそれぞれ意見を述べ討論を行い賛成多数で可決された。



放射線を数値で見る

平成22年度 決算を認定

決算特別委員会は10月19日から11月4日までの4日間にわたり、副町長、各所属長並びに事務局長立ち会いのもとに慎重に審査した。各会計とも各々適正に執行されているが、次の事項について要望し意見を付け認定し、本会議に報告した。

1、一般会計について

多額の不要額を生じている。

予算の目的を充分達成しながら、節約による不要額が、予測できない事情による不要額か、吟味検討が必要である。

バランスシートの分析や行政コスト計算書を精査し、より精度の

高い予算編成と執行に努力されたい。

2、税料について

税、料の未納解消については、負担の公平性を確保する大前提がある。

最近の社会・経済情勢の不安から収入未済額が横ばいのままで推移している。

国民健康保険税は収入未済額が多額である。

このことにより、管理職を軸に町税等未納対策本部を立ち上げ、未納対策への努力は評価できる。

今後、新規滞納者を増やさず、滞納者の実態把握や各部署との連携・情報提供を密に行い、全庁的な徴収対策に努力されたい。

3、補助金について

地方自治法、条例、規則等法令遵守し執行されている。

運営や事業補助など、団体・地域の活性化・醸成に繋がる活動内容・効果の把握を行い、見直しも含めた対応をされたい。

4、事務及び事業の取扱いについて

合併後の事務事業は順次統一されてきているものの、住民の移動手段・し尿・ゴミの処理体制等、引き続き課題も山積している。

合併以来、職員の削減も実施されており、効率的、効果的な執行に留意され住民サービスの向上に鋭意努力されたい。

以上慎重に審査した結果、適正に執行されていることを報告し意見とする。

審議



町職員給与改正条例

(町職員給与を現行から0.23%引き下げるもの)

問

国家公務員、県内他市町村との比較は

答

国と比較して91.3%、県内でも下から3〜4番目という状況。

問

人事院勧告に永久に従うのか。現在の制度がある以上、続けていく。

答

人事院勧告に永久に従うのか。現在の制度がある以上、続けていく。

問

議案のとおり引き下げた場合の削減額は。

答

現行より総額で月に15万4千円の減額となる。

新設中学校開校計画

問

新設中学校が目指すもの、何をもって特色と見るか。

答

教育の目標は人格の形成。地域の特色、郷土を愛する気持ちを生かしたい。

問

計画以外にも配慮し、進められたい。

答

ご理解を得ながら、多くの意見を聞いて検討したい。

問

合意されたものの情報開示はどうするか。

答

広報紙等を通して。じ、早くお知らせしたい。

国民健康保険特別会計補正予算

問

(一般会計から3500万円繰入、国保基金から6500万円繰入)

答

多額の繰入金を要している。当初予算額に問題があったのでは。

問

対前年比の伸びを2%と予想。余裕のある予算を組めば国保税も大きく上がる。

答

今年度の伸びを加味して額を決めたのか。

問

上半期の伸びが対前年比7%。冬の受診増を見込んだの予算額。



ひとつになって

ズバリ
町政を問う

一般質問

12月14日、15日の両日10名の議員が一般質問を行いました。主な質問答弁の内容を、質問した議員の要約により6～15ページに掲載します。

なお、質問内容の概要版を、議会開催日の翌々日から議会事務局、加茂川総合事務所、インターネットで用意しています。ご利用下さい。



改修で快適な生活

問 長期の不況のため建設業者の仕事づくりとして3月議会で、住宅改修に助成を提案していた。



新谷 富彦 議員

答

新年度予算に組み入れを

問

住宅改修への助成は

答

重森町長

3月に同

様な質問があり、内部検討も行っていた。

高梁市が9月より制度を実施したが、わずかの期間で予算消化し追加補正を組むと聞いている。
この制度の人気度の高さが伺われる。
秋田県の例も紹介しているが、この制度は生活密着型の施策で、地域経済の再生に貢献すると思う。
制度実施には、率によるものとするか、金額で行うか、良いものに仕上げてもらいたい。



出番を待つ県産材

現在建設業者も大変な状況であり、それらに関する資料も持っている。
他の市町村が実施しているからでなく、いくらかの支援があればとの思いの人も多いと聞いている。
基本的には新年度予算に入れるよう指示している。



草地 博之 議員

問

国立病院岡山市内へのバスは

答

金川経由で岡山市に調整中

問

免許センター
行のバスを、国
立病院経由で岡山市内
へ行けるバスにできな
いか。

吉備高原都市から空
港行きのバスが数便で
きると、町内の交通事
情が大変良くなるので
バス会社へ要望してほ
しい。

デマンドタクシーが
10月1日から本格運行
となったが、家の近く
まで来てもらえるので
大変便利である。まだ
一部の地域のみ実施で
あり町内全域に広げる
べきと思う。

また、運行時間を路
線バスの時間帯に合わ
すとより便利になるの
ではないか。
バス事業者、タク
シー会社に影響が出る
ので理解が必要であり、
町内のタクシー事業者
へ委託できないか。

答

前田総務課長

現在の免許セ

ンター乗り替えでなく、
新山始発、金川経由で
国立病院へ乗り入れる
バスについて、関係機
関と新年度からの実施
を目前に調整中である。
吉備高原都市から岡
山空港へのバス便につ
いては、町費の持ち出
しが予想されるので難
しい。

デマンドタクシーに

ついて、究極は全町に
広げる必要があるが、
現実はバス事業者、タ
クシーとの調整もあり
難しい、巡回バスをデ
マンドタクシーに切り
替えることも検討して
いる。
運行時間について、
路線バスの時間が早い
ので検討はするが難し
い。



送り迎えは庭先で

集落支援員の活動

問

集落支援員の
制度を施行し
て、約1年が経過した
が、あまり成果が見ら
れない。今後の活動と
して実情をよく調査し、
ニーズにあった支援を
するために、全庁横断
的取り組みが必要にな
ると思うがどうか。

答

重森町長

期待された活
動ができていないが、
今後高齢化が進む集落
について、集落支援員
を中心に地域の実情を
分析し、その結果によ
り農業・建設・福祉に
至る幅広い課題がある
と考えられるので、役
場の体制を整備し取り
組んで行きたい。



守りたい地域の「絆」

問

周辺環境に配慮した工事を

答

事業の範囲内で原状復帰



西山 宗弘 議員

問

近年水道管の老朽化等により改修工事、改良工事等が行われているが、埋設工事の行われている周辺の環境や、その状況に配慮した工事を行っているのか尋ねる。

答

菅野水道課長

工事周辺の皆さまには大変ご迷惑をかけながらも、理解協力をいただき、工事を終えることができた。



周辺に配慮した工事

選挙投票について

問

工事は、関係法令に基づき、その許可条件のもとで施工している。施工上の基本的な考え方は、事業の範囲内での原状復帰が原則である。また、周辺の環境や状況への配慮も、工事の施工上非常に重要な部分であり、常に配慮をした工事を行っている。

問

投票日に投票所へ向うくことのできない人や高齢者等が不在者投票や、期日前投票を行う場合、法律に基づいた方法で行うが、本人確認等を含めて手間

がかかり、高齢者にとっては大変な行為であり、簡素化することはできないか伺う。

答

前田 総務課長

従前の不在者投票ではたくさん

あったが、相当分簡素化されて今に至っている。

更なる手続きの簡素化を図るために、選挙管理委員会等の審議を経る必要もあり、早い取り組みを検討する。

有害鳥獣捕獲後の

処理について

問

有害鳥獣の駆除については猟友会

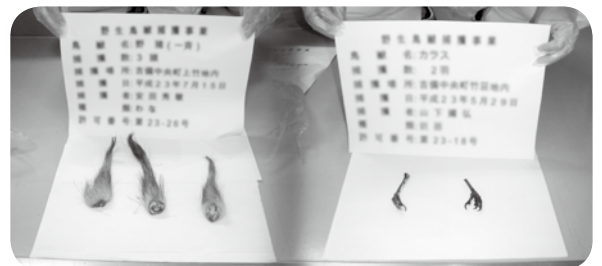
駆除班の方に大変なご苦労をかけている。捕獲後補助金等のため、しっぽ等を役場に持って行くが、その後の処理はどのようにになっているのか尋ねる。

答

富田農林課長

捕獲に伴う補助金は狩猟者登録を行った狩猟者が、有害鳥獣捕獲許可を受けて捕獲、並びに狩猟期間中の捕獲について補助金を交付している。

捕獲後の個体の確認



生活を守る有害鳥獣駆除

交通安全等について

問

最近、消防隊員が無免許で消防車

答

下山副町長

を運転して仕事をした、事故や違反をして、無免許が発覚する等の事例がたびたび報道されている。町ではどのような対策や指導がなされているのか。また、免許証等の確認はどのようにしているのか尋ねる。

職員の交通安全対策については課長会議や職員研修等で交通安全の厳守、マナーや安全運転の励行等について口頭や文書において説いている。

また、先般の県内の市町村で無免許の職員が検挙されるなど、法規が乱れていることを受けて、各課長に命じ職員の免許証の確認を行った。また、職員の交通違反や事故についても、違反の度合いや事故の大小により文書や口頭で注意を行っている。



山崎 誠 議員

問

給食へ地元産使用なぜ進まぬ

答

供給の不安定が難点である

④ 11月29日、関係3組織を統合して設立された「地域農業再生協議会」に町はどのように関わ



地元産の食材を

問

農業立町を掲げる町にとって、農業の活性化は重要な課題である。今回は農産品の販売戦略を重点に尋ねる。

答

重森町長

② 地元産は供給の不安定が難点になっている。

③ ブランド化は、言うは易いが実行は至難。過去に関西方面へ賀陽米として出荷したこともある。米粉パンに町内産米が使われることを期待している。

答

富田農林課長

① 6次産業化は、農業者等による生産、加工、販売の一体的展開を自主的に取り組むことがたいせつ。専門知識は必要なので関係機関と連携し支援する。

答

津島教育長

② 町内産の使用が進まない原因はいくつかある。

(イ) 給食用食材は町内業者から購入しているが、町内産の取り扱いが少ないのが一因。町内産は質、量とも安定供給に難点があるというのが業者の意見。

(ロ) 給食費は小学校246円、中学校290円で実施しており、予算内で抑える必要がある。

(ハ) 調理上、衛生上の問題などがあり、使いたくても使えない面がある。

問

(ロ) 給食費の一部を町で負担することは検討していないか。

(ハ) 調理場の対応を要請するという9月議会の

答弁はその後どうなっているのか。

答

教育長

(ロ) 町負担を考えたことはない。

(ハ) 調理には時間の制約があり、手間をかけるのに限りがある。

放射線量、率先しては

測らない

問

福島原発事故で大量の放射性物質が放出された。日米欧の研究チーム発表によれば西日本にも相当量が飛来

降下している。

① 少なくとも町内2箇所定期的に測定してどうか。井原市は独自に行っている。

② 今後、食品などによる内部被曝が心配される。消費者庁が行っている食品残留放射線測定機の貸し出しに申し込んでほしいか。

答

町長

① 放射線量を測るのは悪いことではないが、率先してとは考えていない。町村会で考えたい。

答

網島住民課長

② 今回は150台の貸与台数だが、多くの申し込みがあり貸与の可能性が低いと思われる。12月19日が期限で、検討しながら対処する。

③ 国が委託し美咲町で実施している。町独自の調査は考えていない。



放射線測定器

●これ以外にも

★中学校統合に伴う高校学区問題。

★デマンドタクシー実証実験の成果と課題を質問した。

問 猿被害、早急な対策を

答

猟友会駆除班と協議



森下 誠一 議員

猿被害がないようにしてもらいたい。

現状にそぐわない狩猟税についても、県での狩猟税廃止が最も好ましいが、なかなか実現しない。

問 大桑村では22年度、115頭もの猿を駆除している。

有害鳥獣対策の予算も多く、いかに有害鳥獣対策に力を入れ取り組んでいるかが伺われた。町でも大桑村で使

用して実績のある、小型の捕獲檻を相当数購入して、貸し出しをしてもらいたい。

今からが山に餌がなくなる時期である。早急に対応して春先から

大桑村では独自に狩猟税等の助成をされている。町でも狩猟税の助成をすべきではないか。

答

重森町長 有害鳥獣

の駆除対策には苦慮している。狩猟税についても県に要望しているが、県は税収を落したくないという前提があり難しい。



猿と知恵くらべ

答

富田農林課長 有害鳥獣駆除

対策は、猟友会駆除班の皆さんの協力をにより、年間を通じて駆除活動を実施している。

猿を複数捕獲できる、大型で固定式檻の設置と、小型の捕獲檻の設置と併用で猿を捕獲したい。

その設置場所・管理・

捕獲後の処分等の問題を早急に猟友会駆除班、地域と協議し体制を整理したい。

インフルエンザの

予防接種

問

本年度もインフルエンザの流行が報道されているが、例年と違って子供に対する助成がない。少子化対策・若者定住・子育て支援の観点からも町独自の助成をすべきではないか。

隣接の高梁市が1歳から小学校6年生まで助成している。このような子育て支援の差が隣接市町村に若者が出て行く大きな要因になっている。

町内の中学生以下に助成をしても、財政に重大な影響が出るとは思えない。善処すべきでは。

答

町長 当初全体

の予算を組む時、精査しはすした。もし新型のインフルエンザが流行すれば、緊急で対応する。

答

下山副町長 子育ては

非常に重要で町でも子育て支援は特に力を入れており、保育料等は近接の町村より非常に安くなっている。

本年度は通常の季節性のインフルエンザに移行したため助成を行っていない。

前年度には助成を実施したが、残念ながら対象者で接種したのは約25%であった。

答

石坂保健課長 インフルエン

ザ予防接種の助成は県内では6市町村が実施しており、周辺では高



痛くても予防接種

梁市が実施している。町では子育て関係で、PRすべき安い保育料・子育て教室・小児医療・小児救急の講座など、総合的にいろいろ子育て支援策をしている。

今年度は通常の季節性のインフルエンザということで助成はしていない。万が一何かあれば、補正等で行いたい。



難波 武志 議員

問

火災報知器の設置状況は

答

設置は自助、共助、地域力で

問

平成18年に新築住宅へ、23年6月には既存の住宅への火災報知器の設置が義務化された。

義務化に伴い本町では、全戸に火災報知器の無料配布が行われた。しかし、「火災報知器はいただいたが、そのままにしている」という声も時には聞くように、未設置の家庭も多い。これから日増しに寒くなり、暖房器具など火を使うことも多く、火災の発生しやすい時期となってくる。

なんらかの理由で設置が遅れているとすれば、早急な対応が必要と考えるが、現状と対応について伺いたい。

答

重森町長

配布しても設置しなければ効果はない。現在の状況がどのようなになっているか多に関心があり、普及に対しての対応も皆さ

答

前田総務課長

火災報知器の配布後に告知放送等で設置の呼び掛けはしたが、設置の確認はしていない。今後

も設置啓発に努めていく。自分で付けられない場合、近所や電気屋に依頼するなどして自助、共助で設置してもらいたい。



快適トイレになります

「道の駅かよう」のトイレの改修について

問

交流促進施設

「道の駅かよう」は「道の駅かまわ円城」、「JAびほくかようあおぞら市」と並んで、吉備中央町の農産

物や加工品など特産物の発信基地として、また、行楽客の休憩場所として大変にぎわっている。しかし、そのトイレは照明も薄暗く、

答

町長

設置して相当期間が経っている。新しい方向へ変えていかなければと協議している。

答

田村協働推進課長

トイレの壁が茶系統であり薄暗く感じるし落書き等も多い。女子トイレは数も少ない。今後トイレの必要数も調査し、近代的なトイレに改修していきたい。

台風12号による農地などへの被害の対応について

問

9月2日～4日にかけて台風

12号が岡山県を通過し、記録的な大雨により多大な被害をもたらした。本町でも記録的な大雨により町内各地で道路、河川水路、農地などに



残る災害の爪あと

答

河内建設課長

多くの被害が発生した。現在の状況や、今後の復旧工事への対応について伺いたい。

国の災害査定も終わり、農林災害については入札に向けて設計書の作成中であり、今後随時発注していく。極力来年度の作付けに支障がないよう進めていく。

問

許すまい「村の結い」壊すTPP

答

更なる反対の広がりへ力を



日名 義人 議員

反対も増えている。輸出産業も円高で吹っ飛ぶ。

農業立町の本町も農業経営がやれなくなれば大半が荒廃地化。農業は生命産業、安く

食糧輸入をと言えど、人口増、気候変動（オーストラリア、アメリカも干ばつ）、やはり自給が基本だ。大規模化も価格が下がれば不成立、土地集積も困難。

かつて日、独、

問

中学校統合は過疎・児童激減対策からの提起だが、

①特色ある学校づくりで定住促進をの視点は。②学校は役場と並ぶ住民の心の拠り所。2校方式などバランスある町づくりは。③新設中建設は何より住民各階層の合意は不可欠だが。

答

津島教育長

過疎対策ではなく、よりよい教育環境の整備と考えている。

問

今大震災時の教訓として「集落の結い」が危機管理能力を発揮と評価されている。が、TPPは農業・農村破壊でその結いを壊すは必然。が野田首相は「TPP協議へ参加」決定。全国町村会、町長の現状認識を問う。

答

重森町長

TPP、内容が知れば世論調査の



どうなる？ふるさとの農業

伊三国同盟時、バスに乗り遅れるなど言われた。今回のTPPが、あの誤りにならないよう全力を尽くして我々の主張をと日々思うし、更なる危機感を持った反対の広がりを願っている。

問

本町全域で「結い」を生かした自主防災体制構築と、今台風を経て裏山、耕作地の荒れ、放置溜池などの新たな災害誘発が心配。実態把握、防災計画の見直しは。

答

前田総務課長

震災の教訓を踏まえ、自主防災（自助・共助）の育成に反映させる。

答

河内建設課長

指摘の各レベルの警戒区域は百数十カ所。県調査をもとに防災マップ化し各戸に配布。県地の滑り警戒区域調査は平成25年に終了。特別警戒区域は県の調査終了後現地確認した。

●これ以外にも

★「TPPに抗し、吉備高原の自然、文化を生かした町づくりを本格的に」について質問



高めたい防災意識

問

通学対策と生活交通の連携を

答

現路線の利用促進が先決

問

長距離
離とな

る通学路対策と、交通手段を持たない住民の生活交通対策を連携して、通学に利用するバスと近隣の市内等へ向かう路線バスを、新設中学校を連結地点として運行することにより、住民の利便性向上を図るべきではないか。

答

前田総務課長

公共交通機関が必要と言いつつも



黒田 員米 議員

今はいかに現在の路線を利用してもらうかが重要である。乗用車の利便性にはかなわないため、その利便性に差をつけて利用誘導が必要である。

実際には利用してもらえない実態がある。仮に神原を中心にバス路線を確保したとしても利用してもらえない保証がない。



どうすれば便利になるの？

災害補助

問

近年、豪雨に隣接する法面の崩壊事例が増加している。住民が安心してその土地で暮らしていくために補助を行うべきではないか。

また、宅地裏の崩土処理に対しては過去に10万円を最高限度額として1㎡当たり1万円の崩土処理費が出ているが、現在は2万円の見舞い金になっているが、これを復活するべきではないか。



負担が大きい宅地災害

答

重森町長

自分が住んでいる家は所有者自身が災害への防御策をとることが基本と考える。

答

総務課長

事務事業の見直しで2万円の見舞金として統一をした。

ブッポウソウ

問

キャラクター開発、巣箱設置、

インターネットによる広報、各種団体との提携などによりブッポウソウの積極的な保護、ならびに地域活性化をはかるべきではないか。

答

田村協働推進課長

現在、ブッポウソウ、メダカなど希少動物の保護に向けて保護計画を策定中である。それを元に条例制定

を行い農村、里山の活性化につなげたい。

東北大震災



3.11 を忘れない！

問

東北大震災のパネル展を開催

し、地域防災の意識向上と、被災地への継続的な支援向上につなげてはどうか。

答

町長

パネル展を平成24年2月12日の男女共同参画推進大会と同時開催をする。それを最初として以後も適時に開催することにより継続した支援の意識づくりをしたい。

問 ごみ処理説明会は

答

住民会単位で開催



熱田 康治 議員

③指導員は何人ぐらい
予定しているのか。

②1月上旬から3月中
旬にかけて開催予定。
れば出向く予定だ。

答

綱島住民課長

①基本的には
住民会単位で開催し、
他の団体から要請があ

2時間程度を予定し
ており、変更する点に
ついて充分説明したい
③2名程度予定してい

る。住民課の職員も要
請に応じて出向いて説
明する。

問

全住民に理解

を得るのは難し
いと思うが、その時に
なつてあまり混乱の起
こらないように、万全
を期していただきたい。

中学校統合に伴う

周辺道路の整備は



狭くて危険

問

平成24年4月
から加茂川地区

のごみ処理の委託先が、
岡山市から高梁地域事
務組合に変わるものと
予想される。

そうなると、ごみの

分別方法が大幅に変わ
ると思うが、町民には
どのように説明をして
理解を得る予定なのか、
説明会の開催について
次の点について尋ねる。
①規模はどの程度か。
②開催の時期はいつか。



確実な分別を

問

平成26年4月
に町内の中学校

は1校に統合される予
定だが、周辺の道路は
道幅も狭く歩道のない
ところが多くあり、大
変危険である。早急な
改良が必要だ。執行部
教育委員会、議会が一
丸となって陳情や要望
をする必要があると思
うが考えを聞きたい。
また、町道の改良は
どのような考えか。

答

重森町長

危険な個所が
多い、通常の陳情では
意味がない。三者一体
で県知事やそれぞれの
責任者に直接何が何で
もという気持ちで陳情
していききたい。

答

河内建設課長

周辺の町道、
農道は開校までには、
何らかの方法で改良し
なければならぬと考
えている。今後関係者
と協議しながら進めて
いききたい。

答

津島教育長

少しずつ改良
できているが、思うよ
うには進んでいない。
三者と、できればPT
Aも加えて要望や陳情
をしていく考えである。
.....
質問は2件とも今
回の定例会に議案が提
出されているものだが、
2議案とも最終日の採
決の結果、可決して正
式に決定した。



石井 雅之 議員

問 ウイルス性肝炎のうち、主に血液を介して感染するB型・C型肝炎は、キャリア化や慢性肝炎からの発ガンが知られている。

町内には感染者が多く、また、佐賀県の保育所での集団感染の報告もある。町のウイルス性肝炎への対策はどうなっているか。

答 現在、医療過誤での感染対策が進み、生涯一度だけの検査で大丈夫との考えである。町内の肝臓疾患での死亡率は高く、非常に懸念している。

旧町時代に検診時

答 石坂保健課長

現在、医療過



早期治療で健康を

に行われていた肝炎検査を新年度から再開し、キャリアの把握に努めたい。

母子感染対策は実行しており、正しい生活習慣の啓発も進めたい。

受診時定額負担制度に反対を

問

社会保障・税

診時にそのつど100円を負担する制度である。本人の治療とは無関係の費用を窓口で徴収するのは筋違いであり、導入されれば、持病を持ち多くの医療機関を受診する高齢者の負担が過大となる。受診を控えることでかえって重病に陥り、医療費の増額を招きかねない。各自自治体でも反対の意思表示を行う必要があると考えるがどうか。

答 重森町長

この問題には当初から疑問を持ち、町村会でも抗議をしている。

指摘の疑問があることは事実だが、その後政府の方針が変わり、見直すということなので、ほっとしている。

違う形で出てくる可能性があるので、今後の対応を見守りたい。

小水力発電の活用を

問

クリーンな自然エネルギーは、

脱原発議論以前から温暖化対策として注目されてきた。特に太陽光、風力発電が注目されているが、これらは天候によって発電量が不安定であり、基幹電力としては無理がある。

一方で技術開発に伴って、低落差、少流量でも発電可能な小水力発電が、実用化され、制度面でも参入が容易になっている。

地域再生、地域づくりに生かす取り組みを検討する考えはないか。

答 岡田副町長

総合的エネル

ギー政策は国の責務だが、地域でも地産地消を考えることは大切と思う。

水力発電は太陽光より発電効率がよいが、増水時、渇水時には安定供給が難しい。メンテナンスや送電の問題もあり、トータルでは太陽光の方が優れていると考える。

地域活性化として取り組み考えは、提言として受け止めたい。



生かせ！自然エネルギー

委員会の動き

総務委員会

総務委員会行政視察

10月6日、岩崎電気株が大阪市内で開催した「景観用LED照明の最新動向」のセミナーに参加した。

スライドを使い、開発商品の性能とその活用方法についての講義を受けた。

従来の蛍光灯ランプに比較し約60%、水銀ランプでは70%に節電でき、寿命は6万時間から9万時間で従来型より5倍から7倍に伸びている。

LEDの特徴点は、コンパクトで瞬間点灯する。

消費電力料は水銀灯で年9600円に対しLEDでは6929円と約2/3となっている。

皇居外苑の照明が、LEDに新装された。

10月7日、神戸市水道局水質試験所を視察した。

市の人口153万人で、日量90万m³の水道水が供給可能で、その中の10万m³を工業用水としている。

水は3/4は淀川からの購入になる。

源水から蛇口までの責任を負っており、水質管理を重視し、国際規格のISO9001を取得し試験全体の管理を行っている。

阪神・淡路大震災の教訓により災害に強い

水道として、耐震管路網を格子状に設置し、巨大な地下タンクにより、災害時給水可能と説明を受けた。

そのあと所内の多種多様器具の視察をすることができた。



厳密な水質検査

産業建設委員会

六次産業化、猿捕獲で視察研修

10月24日、地元農産品を使った六次産業化で岐阜県中津川市の「ちこり村」。25日、猿捕獲の驚異的実績を上げている長野県大桑村で、それぞれ視察研修を行った。

「ちこり村」は事業体の愛称。中央自動車道中津川インター近くにある、地元で栽培した無農薬、無化学肥料のちこり芋で、生食、お茶、焼酎、染色材料などを製造・販売。地元野菜を使ったバイキング方式のレストランも運営。スタッフは地元60歳以上の高齢者を優先雇用。醸造、配送、栽培施設を見学し説明を受けた。印象的だったのは、高齢のスタッフ全員が澁刺とし

た仕事ぶり。目標と手応えがあればここまでやれる、を実感。大桑村は木曾川沿いの標高500～800mに広がる人口4000余人の



捕獲に有効な小型檻

村。木曾ヒノキを産出する森林が集落の背後まで迫り、町面積の95%を占める。この大桑村の猿捕獲数は22年度115頭と半端な数ではない。その捕獲に成果を上げているのは、一人でも持ち運べる小型軽量の檻。試みる価値があり、委員会で担当課に設置要請している。

10月11日、中学校統合に関わる通学歩道の設置に向けて現地踏査。11月11日、広域水道事業団の経営健全化対策、台風12号被害の査定状況。

12月9日、付託案件の「請願」審査、台風12号被害その後の対応など協議した。

民生文教委員会

新設中学校建設に伴う旧吉備北稜高校の跡地校舎について現地踏査を行った。



中学生を待つ教室

あの時の質問
どねんなったの？

追跡

過去の一般質問の追跡調査を行い、進捗状況・結果を報告する。
(平成22年6月定例会の質問)

質問

かようスポーツ公園の野球場ナイター設備が廃止されたが、若者定住対策としてかけがえのないものであり、費用がかかっても維持しなければならない。利用回数等も踏まえ、町民優先の整備管理をすべきである。

答弁

仕分けはケース・バイ・ケースで行なう。かよう野球場のナイターは廃止ではなく一時中止で、利用率が上がれば復活できる。各種利用団体へは機会あるごとに休止の説明を行なった。

その後（教育委員会）

利用団体も増え、利用頻度を高め、地域の活性化に大いに活用するということから、23年度再開した。



復活したナイター

質問

子宮頸がんワクチンの接種が全国で広がっている。ヒブワクチン、小児肺炎球菌ワクチン接種を含め補助の対象はどうするのか。

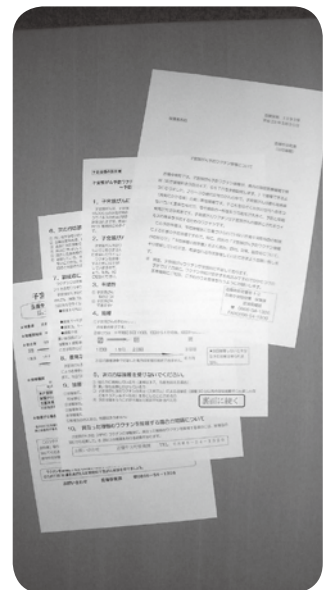
答弁

町内の女子中学生に3回接種すれば費用は720万円、その後の入学者には毎年200万円程度が必要。国の動向を見ながら、制度化への研究・検討を行なう。

その後（保健課）

補正予算化をし、子宮頸がんの接種については中学1年生から高校1年生までの女子に、ヒブワクチン及び小児肺炎球菌ワクチンは乳児から4歳までの児童に接種できるようにした。

23年度以降も引き続き実施している。



対象者へお知らせ

シリーズ

ふるさと

宝

第7回

町の文化財に指定されている古墳のうち3箇所を取り上げました。

ぬくゆ古墳群（豊野八矢）

県道尾原〜賀陽線東側、則安山中にあり、墳の中ほどに「ぬくゆ古墳群」の案内石が立っている。倒木と落葉の折り重なる山中に、

4基が畑地開墾のため破壊されたと記述がある。なお、「ぬくゆ」の円墳が少しずつ離れて認められる。最大の墳で、直径14m、高さ2.5m。築造は古墳時代後期とみられる。賀陽町史によれば、



奥谷・野田古墳群（上加茂奥谷）



南面する奥谷の傾斜面から山麓部にかけて4基の古墳が現存している。いずれも傾斜面の等高線に直交した長方形の溝を掘りこみ、

その中に南に開口部をもつ横穴式石室を構築した後、地形の高い北側斜面を馬蹄形状の溝を掘りながら、石室を埋めるとともに墳丘を盛り上げる古墳時代後期（6世紀後半）の在地有力者の奥津城（墓）である。

現存する4基の古墳はいずれもすでに発掘され、封土（盛り土）もほとんど流失してい

て、副葬品も散逸して

山根山古墳群（上竹サイノタワ）

県道高梁〜御津線からふるさと農道を約800m入った農道横のやや険しい丘陵にある。古墳群に続く山道口に「山根山古墳群」の案内石があり、約50m登



いるため詳細は明らかでないが、いずれも径15〜18m、高さ2〜3m程度の円墳である。

石室は、発掘時にかなり壊され、崩土により埋没しているが、入り口となる南口部を開けて2〜3世代の家族数人を追葬した代々墓と考えられる。（旧加茂川町教育委員会）

編集後記

謹んで新春のお祝い申し上げます。

昨年は国内外ともに非常に多難な年でありましたが、キラキラと輝きながら初春の空に舞う雪を見ていると、とても良い年になるように思います。

議会情報がより分かりやすく、読みやすい議会だよりの編集にと頑張ります。

本年もご愛読いただきますように宜しくお願いいたします。

（森下誠一）

